

法華宗信報

Hokkeshu Shinpoh

NO.150
お盆号

平成28年7月1日
【発行】法華宗宗務院

つなぐ

今あることを感謝して

CONTENTS

- 2 日蓮大聖人御聖誕800年に向けて「日蓮大聖人をたずねて」～鎌倉～
- 4 法華宗青年伝道隊紹介 第九期錬成
- 6 つなぐ 東日本大震災～復興商店街をたずねて～・熊本地震 義捐金のお願い
- 8 元気のサプリ・マンガ「光くん日記」・編集後記

表紙写真／大本山光長寺光長保育園・光長寺幼稚園児による奉納踊り

宗祖日蓮大聖人御聖誕800年 一天四海皆帰妙法 お題目総下種運動 咲かそう いのち

日蓮大聖人をたずねて

第2回 —鎌倉—

平成33年にお迎えする宗祖日蓮大聖人御聖誕800年に向け、編集部ではその御霊跡を訪ねております。第2回は鎌倉、幕府の中心地にて布教を始められた大聖人のご足跡を訪ねたいと思います。

鎌倉より江の島を望む



安国論寺



辻説法跡

鎌倉での布教

建長五年（一二五三）四月二十八日、清澄山にて声高らかに唱題開宗された宗祖は、法華経を弘めるため、鎌倉に向かわれました。人々の往来もはげしく、賑わっていた鎌倉では、すでに禅の教えが浸透しており、また、念仏が民衆にもてはやされていました。

そのような中、宗祖は松葉ヶ谷に草庵を結ばれます。現在はその草庵を結ばれたと伝えられる寺院が三箇所あり、詳しい場所は定かではありませんが、武士の屋敷と商家町が混在していた地域であったと考えられています。

草庵を拠点にされた宗祖は、人々が行き交う小町大路の街頭に立たれ、辻説法を行われました。多くの聴衆を集めました。念仏に酔いしれる人々は、悪口を言い、石を投げつける者もいました。それでも宗祖は力強く説法を続けられ、そのお言葉に感銘を受けて信仰に目覚めた人たちも多かったです。中でも第一の弟子である日昭聖人とその甥である日朗聖人は、後に六老僧に数えられ、武士である四条金吾は有力な檀越となり、宗祖からのお手紙が現在も数多く残っています。

当時の鎌倉は地震や暴風雨などの天変地異が相次いで起こり、飢饉や疫病が流行して人心は不安と恐怖に沈んでいました。宗祖が鎌倉に居られたと考えられる。康元元年（一二五六）から文応元年（一二六〇）までの五年間で年号が四度も改められていることから当時の状況がうかがえます。



龍口寺の題目碑
「本門八品所願」の字が見える

この状況を眼前に「只事でない」と考えられた宗祖は『立正安国論』を執筆され、幕府の実権を握る北条時頼に呈されます。その内容は、異変の現状は邪教の流行によるものであり、一刻も早く正法・法華経を信仰するべきであると諫めるものでした。

竜口の法難

その後、『立正安国論』に予言されたことが現実となり、また極楽寺との雨乞い対決に勝利するなど、宗祖の評判が上がる程に幕府や念仏者たちは強い怒りを覚え、処刑してしまおうと考えたのです。

はだか馬に乘せられ竜の口の刑場に向かう途中、鶴岡八幡宮にさしかかった時、「八幡大菩薩に申したいことがある」と馬上より降りました。そして「八幡大菩薩はまことの神か」と言上し、法華経の行者を守護するまことの神ならば、一切衆



鶴岡八幡宮 竜の口刑場に向かう途中で社前にて
八幡大菩薩に言上された



行合橋交差点

生を救済するために身命を惜しまず法華経を弘めている私を守護するのは当然である、と直接訴えられたのです。

また、四条金吾は、この知らせに大変驚き、「法華経に殉じ、師と共に腹を切る覚悟」と死装束で駆けつけ、兄弟と共に宗祖を乗せた馬の手綱を引いて同行したといいます。

文永八年（一二七一）九月十三日、竜の口にてむしろの上に座らされた宗祖は、法華経の行者として法華経に命を捧げることは喜びであると仰せになり、お題目を大音声で唱えられました。そして、まさに刀が振り下ろされようとした瞬間、江の島の方角から月のように輝く鞠のようなものが、東南から北西へ走り、太刀取りは目がくらんで倒れ伏し、兵士は恐れおののき、宗祖に近づくことが出来ずに処刑は中止となりました。それを幕府に知らせる使者と、赦免を伝える幕府からの使者が行き合った橋は行合橋と名付けられ、現在もその地名が残ります。

現在、竜口の法難の遺跡として、龍口寺にその碑が残りますが、刑場の詳しい場所はわかっておりません。町の様子も当時とは大きく様変わりしていますが、「このあたりだったのかな」「ここを歩かれたかもしれない」と宗祖への思いを馳せながら訪ねてみてはいかがでしょうか。

※参考文献 法華シリーズ『日蓮聖人略伝』三浦成雄著

法華宗

青年伝道隊

第九期錬成

青年

伝道隊とは、昭和四十三年、熱心な法華宗の信者による「伝道車献納運動」

が発願されたことをきっかけとして、昭和四十四年、宗門によって発足されたことに始まります。

結成以降半世紀近くにわたり、法華宗の青年僧による布教機関とし幅広く活動し、北は北海道より、南は九州まで六地区に分かれ、現在は青年僧約〇〇名によって組織されております。

隊員は支給された隊服「黒本衣茶五条」を托鉢の装束とし、手甲脚絆に網代笠をかぶり、団扇太鼓を打ち鳴らし、お題目を熱列に唱え、行脚することを本務としますが、その他にも災害被災地への支援活動や托鉢、様々な大法要への積極的な奉仕、伝道車を使用しての広報活動、視聴覚機材を使用した布教活動など時代に応じた様々な活動をしています。

本年

四月三日～七日、大本山本願寺において青年伝道隊、第九期錬成（募集

に応じた新隊員を対象とした修行）が行われました。

法華宗青年伝道隊後援会より、新伝道車一台と隊服一式が献納され、全国各地より二十四名もの青年僧が結集し、五日間の厳しい修行に臨みました。

経験豊富な現役隊員などが講師となり、人前で話す為の訓練、実習、話し方等の修練を行い、アドリブも交えつつ、様々な場所での説法実習が行われま





した。特に観光地京都の繁華街で、通りがかりの人を前に行う辻説法など、新隊員にとっては、心身ともに鍛えられる修行も行われました。

各隊員、疲労の中にもそれぞれに布教の最前線で活躍することを目指す姿勢と意欲に溢れており、五日間の修行を終えた頃には、自信に満ちた顔になり、第九期錬成は成功裏に幕を閉じました。

今回

錬成に参加した新隊員（大橋隊員）に話を聞いてみると、

「この度は本願寺様の本堂内、京都市街地での街頭説法など大変貴重な修行をさせていただきました。そしてその経験から相手に伝えることの奥深さを知ることができました。自らの主張をただ話すだけでは心に響きません。話す内容だけでなく、技術や知識、そして熱い気持ちを持って向かい合わなければならないことを学びました。我々の使命は、日蓮大聖人の意志を戴き、人々に正しい教え、お題目の尊さを伝えていくことです。そのためにもこの経験を糧に『伝える力』の向上、また探究を止めることなく布教活動を行っていくことを強く決意致しました」と力強い答えが返ってきました。

今回誕生した新隊員が、各地で布教の最前線に立ち、来たる宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年にむけて熱心なお題目を獅子吼する姿にご期待下さい。



東北を巡る

～ 復興商店街 ～

東日本大震災から五年余り、今年もお盆の季節となりました。津波などで甚大な被害を受けた地方は未だ復興の只中にいます。

今回編集部では、被災地にある復興商店街を巡ってきました。それぞれの土地で、多くの方が震災を乗り越え、生活をされています。あの震災について、ただ、悲しむのではなく、自らの目で、足で感じ、お店の方と語らい、買い物をするを通して、被災地の皆様との「つながり」を再確認してきました。



ろちゃんハウス



道の駅みなとオアシスみやこ



シーブラザ釜石



サン・フィッシュ釜石



おおふなと夢商店街



プレハブ横丁・大船渡屋台村



台村 気仙沼横丁



気仙沼 海の市



気仙沼復興商店街
「南町紫市場」



福幸商店街



おがつ店こ屋街



女川駅前商店街



女川きぼうのかね商店街



石巻 つなぐ館



関上の記憶



関上日和山



関上ギャラリーメイプル館

三月十一日だけを、震災を思い出す日にしてはいけません。昨年発生した水害や四月に発生した熊本地震をはじめ、多くの天変地異が発生しています。

私たちは常に被災された地域、人々と共にいること、繋がっていることを忘れることなく、ご回向のため、復興祈願のために日々お題目を唱えていきたいと思えます。

※各施設の営業時間等の情報は自治体等のホームページでご確認ください。



熊本地震

義捐金のお願い



4月14日・16日に熊本を中心とした大地震が発生し九州地方に甚大な被害をもたらしました。九州教区にある法華宗寺院教会にも被害が生じ、また檀信徒の方々も被災されております。そこで法華宗では、『信報』を通じて読者の皆様から義捐金を募集したいと思います。尚、皆様のご好意より集まりました義捐金は、被災された寺院教会、被災された自治体にお届けし、被災者の支援とさせていただきます。

振込先

ゆうちょ銀行(郵便局)

郵便振替口座

00180-3-85257

口座名

宗教法人 法華宗宗務院

※通信欄には「熊本地震義捐金として」とご記入ください。





編集部／〒403-0006 山梨県富士吉田市新屋242 霊松院気付遠妙院教会内 TEL 0555-24-2068
発行所／〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-19-1 法華宗宗務院 TEL 03-5614-3055
印刷／YEBISU LLC 〒412-0021 静岡県御殿場市二枚橋312-1 TEL 0550-70-0022